

発行責任者 歯科病院長 川和忠治  
編集責任者 広報委員長 佐藤裕二  
本号担当 広報委員 小林 誠

〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151  
ホームページ：<http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

## 歯科病院長再任挨拶

歯科病院長 川和忠治



平成15年に病院長に就任した際、次の6項目を病院の目標に掲げました。引き続きこれらの項目を目標に掲げさせて頂きたいと思っております。

1. 患者さんの立場に立った安心と満足感のある医療の提供
2. う蝕と歯周病を重視した医療の推進
3. 術後の管理を重視した医療の推進
4. 確実な知識と技術に基づく高水準の医療の提供
5. 地域医療機関との連携を深め地域の歯科保健と医療の向上に貢献
6. 教育病院として次世代を担う歯科医師の育成

平成16年度は講座の統合と新設講座および新設専門診療科の開設を行いました。

大学病院は患者さんの立場に立った医療を提供する場であると同時に教育病院として次世代を担う人間性豊かな質の高い医療人を育成する場としての使命を担っております。そのために従来の専門診療科の他に患者さんのニーズにあった専門診療科を新設しました。同時に卒前臨床実習、卒後臨床研修の体制を充実させる必要があります。そのために患者さんのご理解とご協力をお願いできればと思います。この2つのシステムが円滑に機能することによって次世代を担う臨床歯科医の育成が可能と考えています。

新設診療科（新講座）については、4月に口腔リハビリテーション科の高橋浩二科長が、7月には総合診療歯科の長谷川篤司科長が選出されました。また、本年4月から開設する総合内科には昭和大学附属豊洲病院の助教授の井上紳先生が診療科長に迎えます。

新設専門診療部門については、平成16年2月から「お口の健康外来」を開設しました。本年2月からは矯正歯科の診療室に移転し、その業務に当たっております。歯科衛生士としての重要な業務が目に見える形で実現することにより、患者さんの診療に対する総合的満足度が高まり、本人の継続受診と共に友人、知人を歯科病院に紹介して頂けたらと考えております。平成17年度から歯科衛生士の業務をさらに充実したものにするために看護部から独立する形で「歯科衛生室」を新設しました。予防と術後管理を重視した歯科医療を目指すためにもよろしくご支援の程お願いいたします。

また、新設専門診療部門については、平成16年9月より、美容歯科（真鍋厚史診療科長）、インプラント科（倉地洋一診療科長）、顎関節症科（古屋良一診療科長）、障害者歯科（佐藤昌史診療科長）の4診療科を開設しました。それぞれの診療科も開設して日が浅いのですが、診療科長を中心に、意欲と情熱を持って日々の診療を行っております。

これとは別に地域歯科医療連携準備室を立ち上げ、今まで以上に地域医療機関と密接な連携を目指したいと思っております。

最後になりますが、忌憚のない提案、意見などをどしどしお寄せ頂けたらと思います。



歯周病科は、歯周病（歯肉炎や歯周炎）の治療を中心に行う診療科です。歯周病は、歯の表面や歯と歯茎の境目の溝（歯肉溝）にたまった細菌のかたまり（歯垢）が原因で歯茎に生じる慢性の炎症ですが、そのまま放置すると歯を支える骨（歯槽骨＝しそうこつ）が溶けてしまい、歯がぐらぐらになって最終的には抜け落ちてしまう病気です。

厚生労働省発表の資料によれば、わが国で歯周病にかかっている人の割合は70%以上で、まさに国民病ともいえるべき状況です。それでは、ほとんどの人が毎日歯磨きをしているにもかかわらず、歯周病に罹る人の割合が高いのはなぜでしょうか？ 実は歯一本一本の周囲を完璧に磨ききる（歯垢を取り去る）のは大変難しいのです。歯並びや手の癖も一人ひとり様々です。歯ブラシだけでなく、歯間ブラシや糸楊枝まで使って徹底的に磨くということは、この忙しい現代社会の中では決して易しいことではありません。そのような背景から、「健康日本21」の提言の中で、歯周病は生活習慣に基づく病気、すなわち生活習慣病（糖尿病、肥満、高血圧症）の仲間入りをしてしまいました。

従来の考えでは、歯周病は口の内だけの病気と考えられてきました。しかし、最近の研究では歯周炎は全身の健康状態にかなり悪い影響を及ぼすことがわかってきました。糖尿病などに罹ると歯周病も悪くなるということは以前から知られていましたが、重度の歯周病も逆に心筋梗塞、脳梗塞、糖尿病をはじめとする全身の病気に影響する可能性があります。さらに、妊婦さんでは重度の歯周病があると早産や低体重児出産に結びつきやすいということもわかってきました。したがって、歯周病はお口の中の健康だけでなく、全身の健康にも大きく関係する生活習慣病であるというように考えられるようになってきました。

もう一つ、最近新聞などで報道されることとして、歯周病により失われた歯槽骨を「再生」する新しい医療への取り組みがあります。私たち昭和大学歯周病科でも現在取り組んでおりますが、ここでも大切なことは、歯も歯槽骨も「血」のかよった体の一部で、全身が健康であることが大前提であるということです。

私たち昭和大学歯周病科のスタッフは、歯周病を中心に歯を治療し、よく噛めること、おいしく食事ができるようになることを目標に診療に当たります。また、それが全身の健康の第一歩であることを念頭に取り組みます。幸いにも、昭和大学歯科病院ではこの4月より総合内科が開設され、患者さんの健康に対してより幅広くサービスを提供する体制が整います。患者さんの健康に貢献できるようにスタッフ一同今一層の努力をしてみたいです。

## 患者様からのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	内容・改善等
患者様よりお褒めを頂戴しました	某週刊誌の特集記事（日本の名医）で久光教授の名前を知り、一年間治療を受け、治療の仕方や人間性豊かな対話ができたと感謝しますとお声を頂きました。また、治療が始まるまでの待ち時間が短いこともうれしかったとお声でした。他の職員も一層努力する所存です。
診療を見学する者はマナーを身につけてほしい	「治療しているところを見られたくない」と患者様が意思表示されたにもかかわらず、盗み見るように凝視していた見学者がいて不愉快であったとお叱りです。患者様に不愉快な思いを与えぬよう見学者と指導者に細心の注意を払わせてます。
対応が悪い受付窓口のスタッフ	「1階の受付に窓口対応が悪いスタッフがいた」とのお叱りをいただきました。当該部署は即刻改善に取り組みました。